

## 最終氷河期以降の海面変動の詳細な痕跡を新たに発見！

### － 沖縄島北部西方での海底地形調査から －

第十一管区海上保安本部では、平成24年5月～8月にかけて、沖縄島北部西方海域で、所属の測量船「おきしお」を使用し、海底地形調査を実施しました。

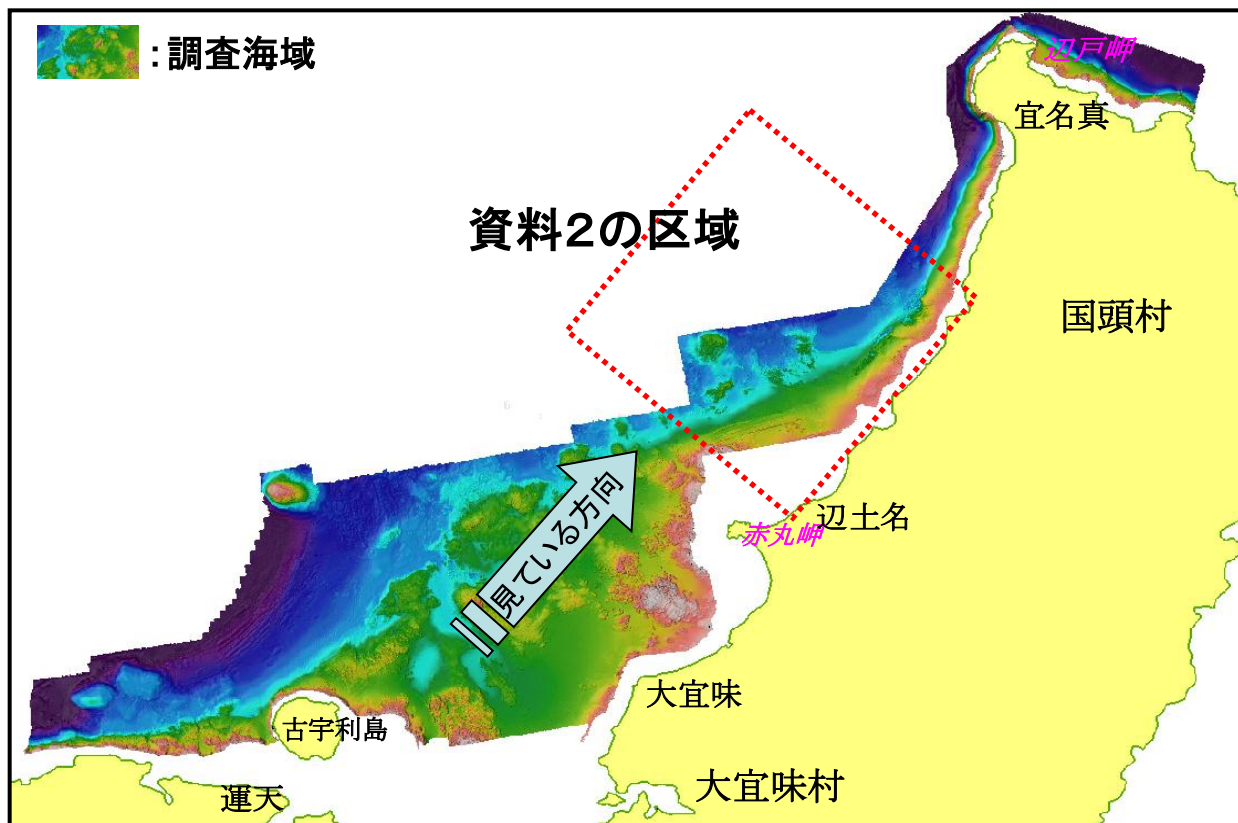
今回の調査で、運天周辺から辺戸岬周辺までの海底地形の全貌が明らかとなり、最終氷河期以降の海面の停滞を詳細に示す痕跡を新たに発見しました。

今回までの調査で、名護～伊江島・本部半島周辺～辺戸岬周辺までの詳細な海底地形の全貌が明らかになりました。平成23年の調査では、伊江島周辺の海底地形から最終氷河期以降の海面変動の痕跡である海成段丘が捉えられ、特に水納島周辺では顕著に現れていました。平成24年の調査では、平成23年の海成段丘とは異なる海面が停滞して形成されたと考えられる地形の詳細な痕跡を辺土名の沖合いの水深約37～49m付近、水深60m付近、水深76m付近で発見しました。特に水深約37～49m付近では、3回にわたる停滞があったことを示しており、海面の停滞が単純ではなかったことが分かります。

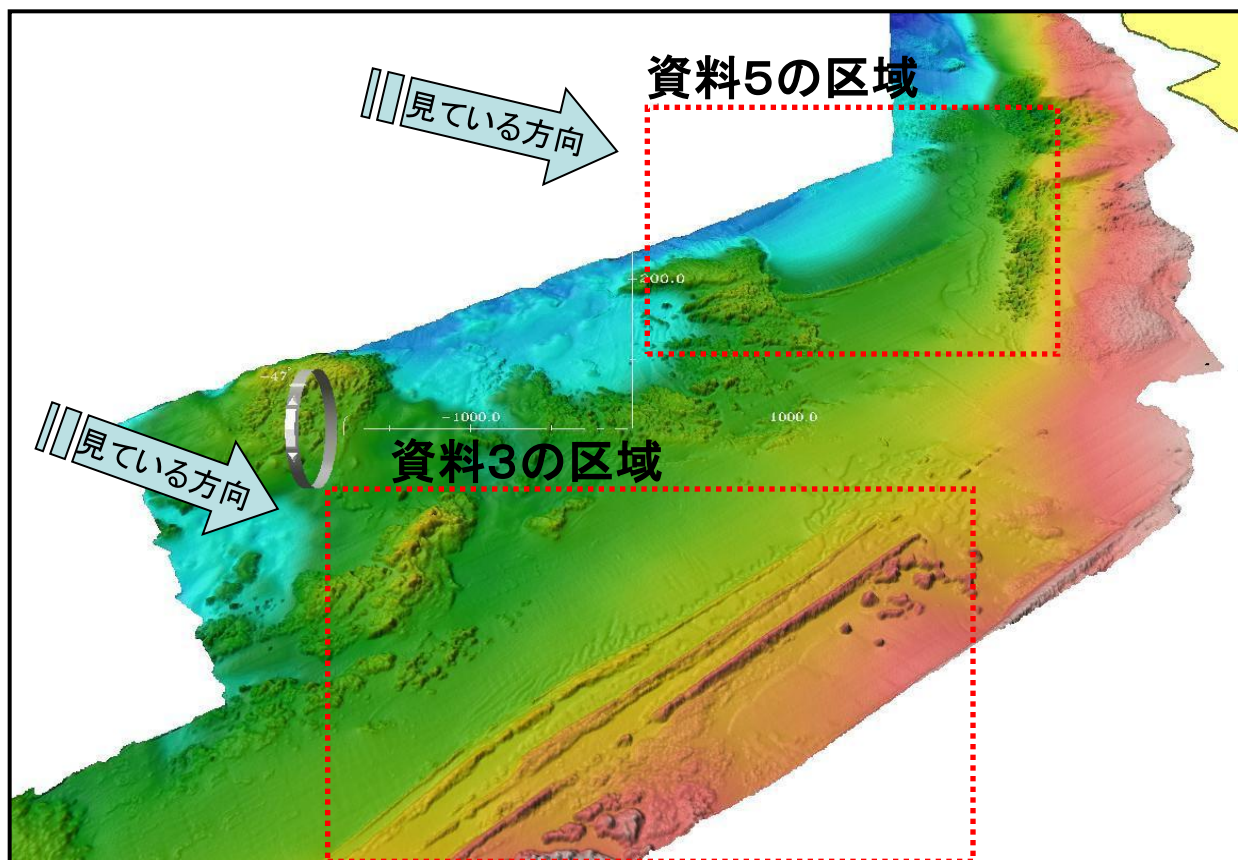
今から2万年前の大昔、氷河期の到来で地球上の海水量は減少し、地球上の海面は今より約130m低くなっており、その後、長い年月を経て地球上の氷の塊は溶け、徐々に海面は上昇し、現在の海面位置となったと言われています。上述した海面変動の歴史が鮮明に刻み込まれていた平成23年の調査での伊江島周辺の海成段丘に加え、平成24年の調査では海面の停滞を詳細に示す海底地形が鮮明に確認できました。これらの海底地形は世界的にも非常に珍しく、地球の古環境研究など学術的にも貴重な資料となります。身近な沖縄の海底には、我々が知らない不思議がまだまだあるようで、これからも見つかるのではないかと期待しています。

今回の調査で取得した情報は、海図等の航海安全情報の更新や海洋活動などにおける基盤情報として利用されます。第十一管区海上保安本部は今後も引き続き、沖縄周辺海域の詳細な調査を実施していきます。

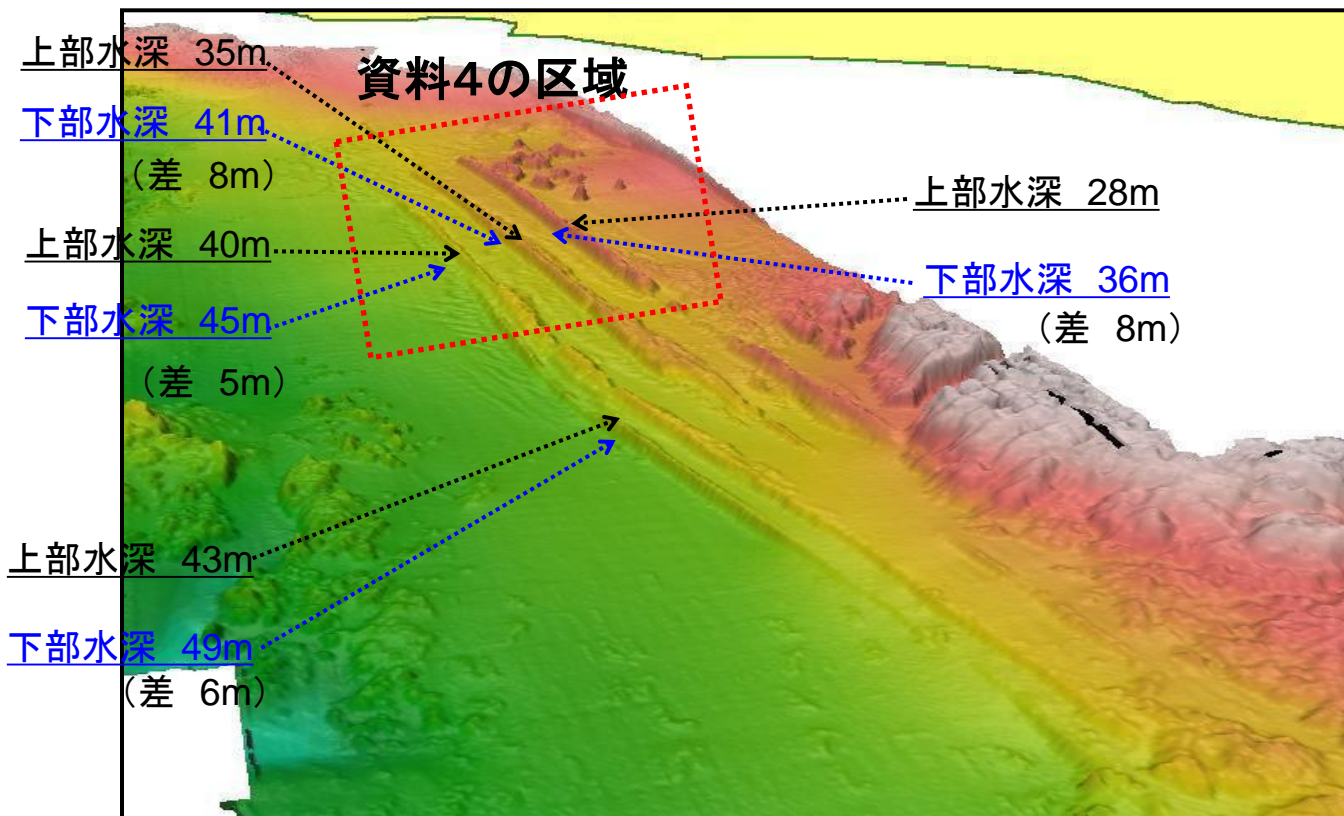
# 【平成23年の一部区域と平成24年の全区域】



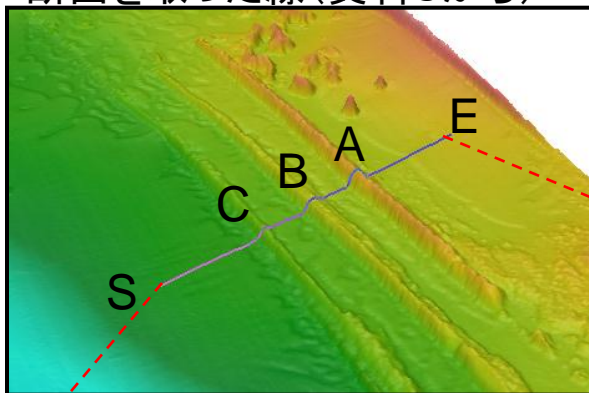
# 【過去のさんご礁の外礁と考えられる地形】



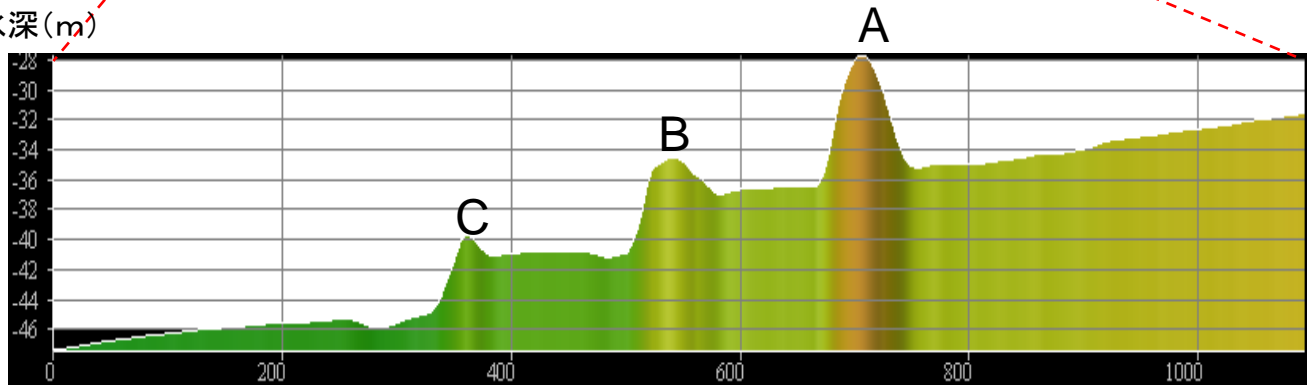
# 【過去のさんご礁の外礁と考えられる地形(拡大①)】



断面を取った線(資料3から)



水深(m)

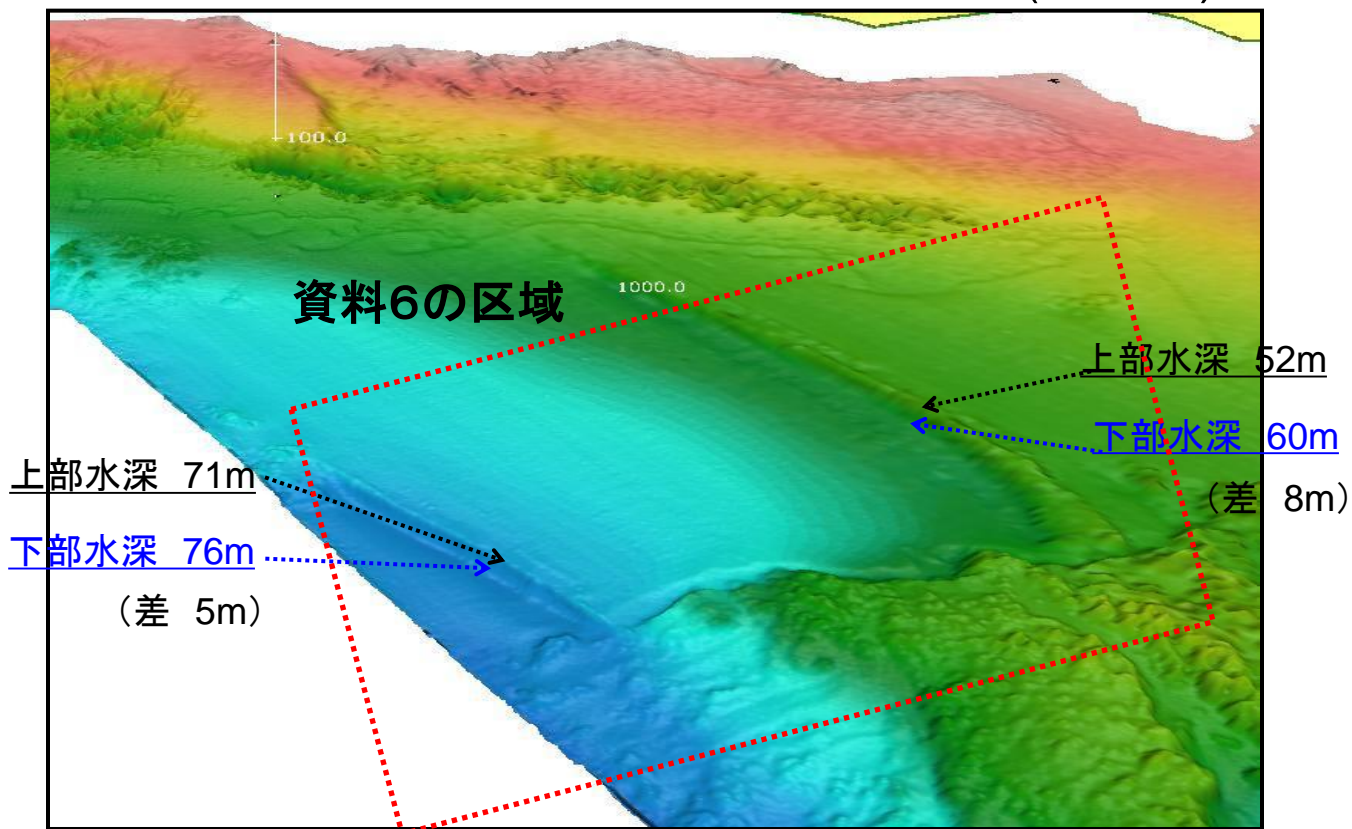


S

注: 図は鉛直方向に12倍誇張

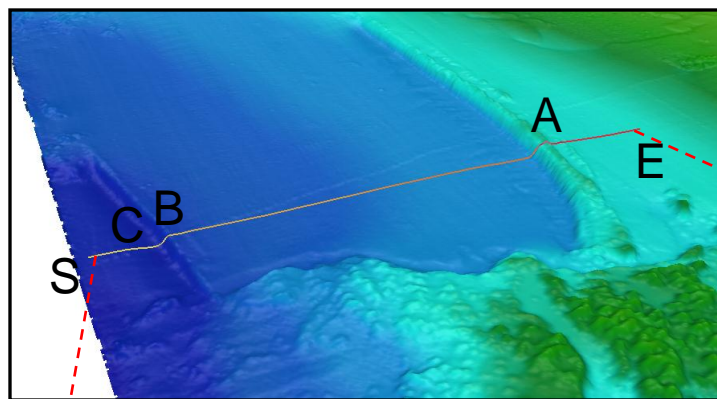
E

# 【過去のさんご礁の外礁と考えられる地形(拡大②)】

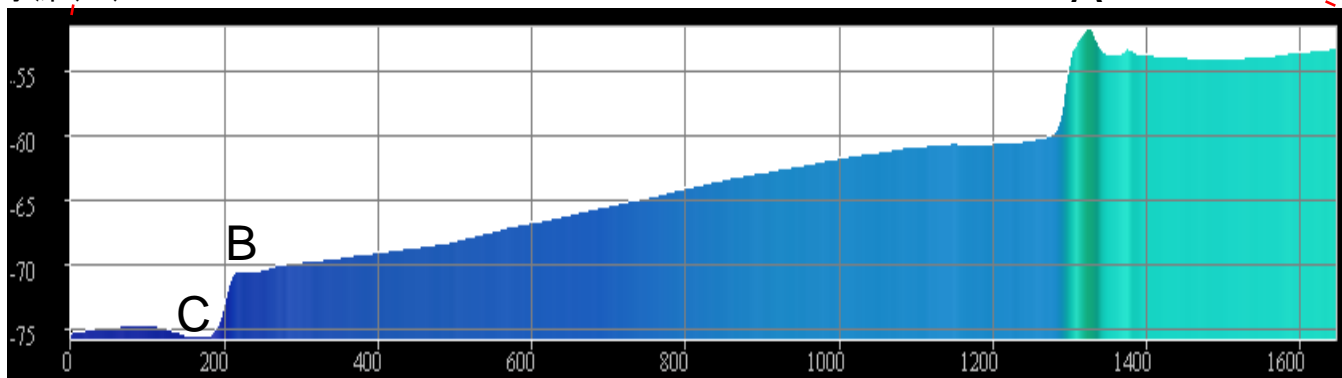


断面を取った線(資料5から)

資料6



水深(m)



注: 図は鉛直方向に20倍誇張 E

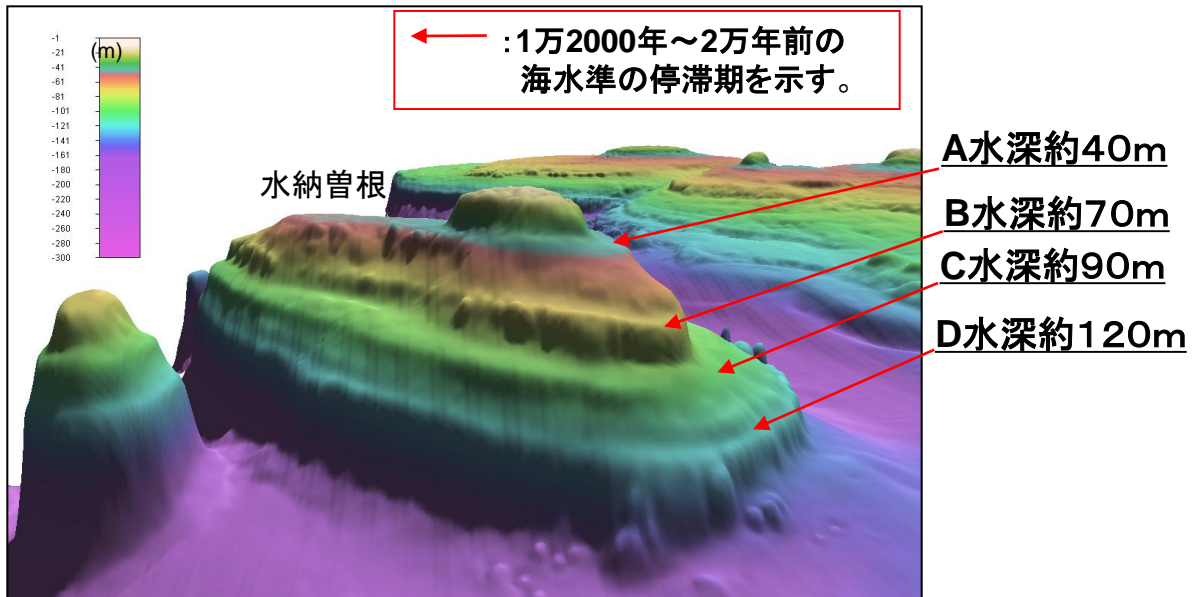
# 【平成23年の調査結果①】

## ＜最終氷河期以降の海面変動の痕跡＞

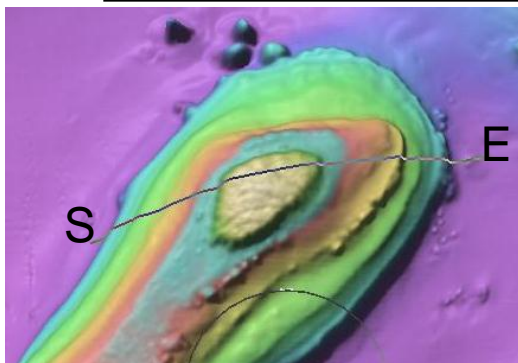
水納島周辺の海底地形から、平坦面と急崖が階段状となっている海成段丘を特に鮮明に確認することができます。海成段丘は、海水の浸食作用により形成されるため、海成段丘の位置から過去の海面位置を知ることができます。

下図の4段ある段のそれぞれが、2万年前の最終氷河期から1万2000年前までの海水準の停滞期を現しており、最終氷河期以降少なくとも3回の海水準の停滞期があったことがわかります。

海面変動の痕跡は、水納島周辺だけではなく、伊江島周辺一体で確認することができます。



注：図は鉛直方向に6倍誇張



注：図は鉛直方向に4倍誇張

